

音源の比較試聴(35) —ワグナーのパルシファル—

1. 始めに

前報(34)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

リヒャルト・ワグナー パルシファル

ドイツグラモフォン 00MG 0086/90

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

リヒャルト・ワグナー パルシファル

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase
STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

この盤は 1979 年から 1980 年にかけてのデジタル録音で、演奏は第 3 幕 4 時間をこえる大曲です。デジタル録音らしく、エッジのたった切れの良い音で、静かな表情の主題から、迫力のあるシーンまでカラヤンの演出が際立ちます。とりわけワグナー歌手達の豊かな声量のダイナミックな歌唱力が聴きどころです。

STAGE+の配信は、受信画面に各パートの紹介が現れますので、曲の進行を理解する助けになります。

舞台神聖祭典劇《パルジファル》

1 前奏曲

舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第1幕

- 2 おい！ おい！ 森の番人たち
- 3 それでよい！ - ありがとう！ - 少し休むとしよう
- 4 感謝しないで下さい！ - はっは！お礼なぞ何もありません
- 5 おお、傷をもたらす奇蹟の神聖なる槍よ！
- 6 敬虔なる先王ティトゥレルは
- 7 かわいそうに！・・・こんなひどいことをしたのは何者だ！
- 8 では言いなさい！ お前は私の尋ねることを何も知らないが
- 9 王が浴みより帰って来る
- 10 場面転換の音楽
- 11 お前がまだどんな智を持っているにしても
- 12 我が息子アンフォルタス、お前は席についているか？
- 13 聖杯の覆いをとれ！
- 14 かつて聖杯の主は

舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第2幕

- 15 前奏曲： 時が来たのだ一わが魔法の城はあの愚か者を今やおびき寄せるのだ
- 16 ああ！ - ああ！ 真夜中！
- 17 さわがしい音はここだった！
- 18 おいで！ おいで！ やさしい坊や！〔花の乙女たちの踊り〕
- 19 パルジファル！ - とどまりなさい！
- 20 これらすべて私は夢を見たのだろうか？
- 21 私はあの子が母の胸にすがるのを見た〔クンドリの語り〕
- 22 ああ情けない！ 私は何をしたのだ？ 私はどこにいたのだ？
- 23 アンフォルタス！ - あの傷！ - あの傷
- 24 残酷な人よ！ あなたは心の中に他の人の苦しみを感じるというなら
- 25 消え失せよ、汚れたる女！

舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第3幕

- 26 前奏曲
- 27 向こうに呻き声が聞こえたが
- 28 今日は、客人！
- 29 あなたに再び会うことの出来る幸い！
- 30 正しい道からそなたを追い放ったのが呪いであっても
- 31 いや、そうするのではない！ 聖なる泉そのものがこの巡礼者に力を与える
- 32 清き人よ、清らかな水の祝福を受けよ！〔聖金曜日の音楽〕

33 いや、ご覧の通り、そうではない
34 真昼時 - いよいよその時刻となった
35 厨子に収められた聖杯を我々は聖なる勤めへと運び行く
36 悲しや！ 悲しや！ この身の上
37 ただ一つの武器だけが
38 至高の救済をもたらす奇蹟よ！

STAGE+の配信は、マスターがデジタル録音のせいか、アナログ盤の印象に非常に近似していますが、やや音の厚みのようなものが後退します。

4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は、デジタル録音らしく、エッジのたった切れの良い音で、とりわけワグナー歌手達の豊かな声量のダイナミックな歌唱力が聴きどころです。STAGE+の配信は、マスターがデジタル録音のせいか、アナログ盤の印象に非常に近似していますが、やや音の厚みのようなものが後退します。

以上